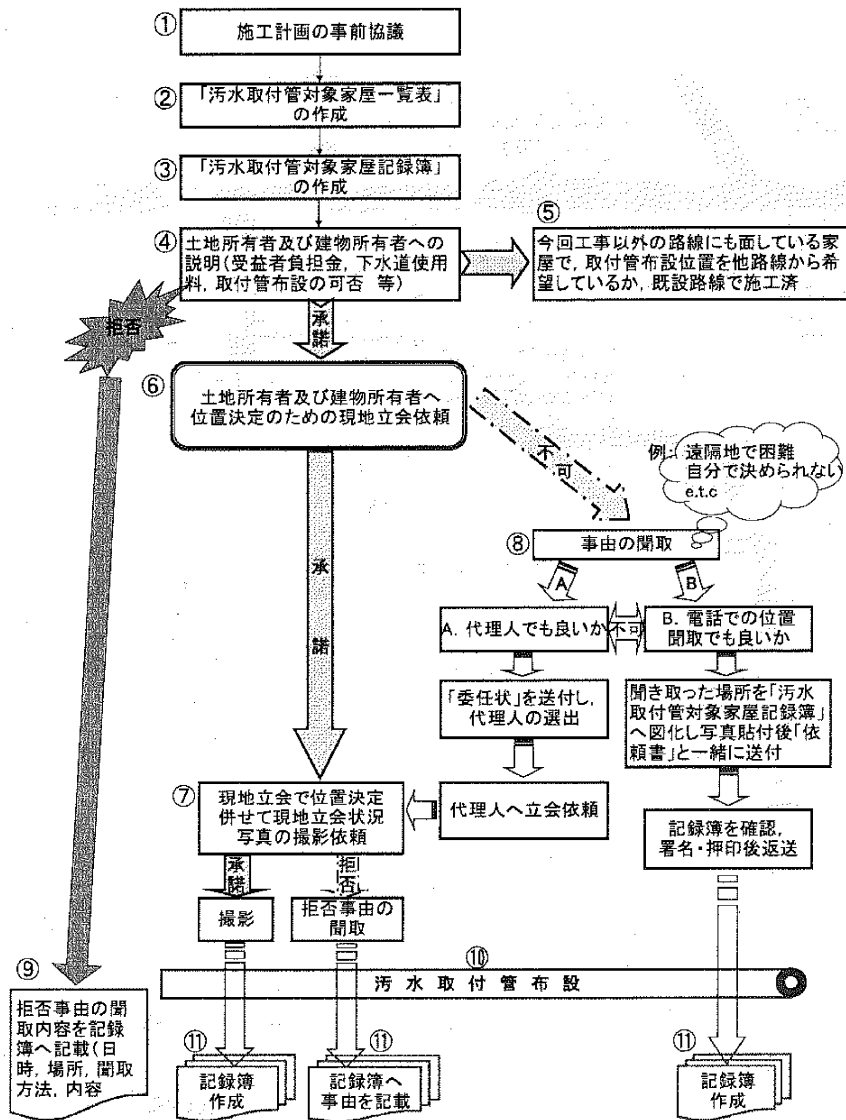


汚水取付管施工マニュアル

香南市上下水道課

1. 施工手順

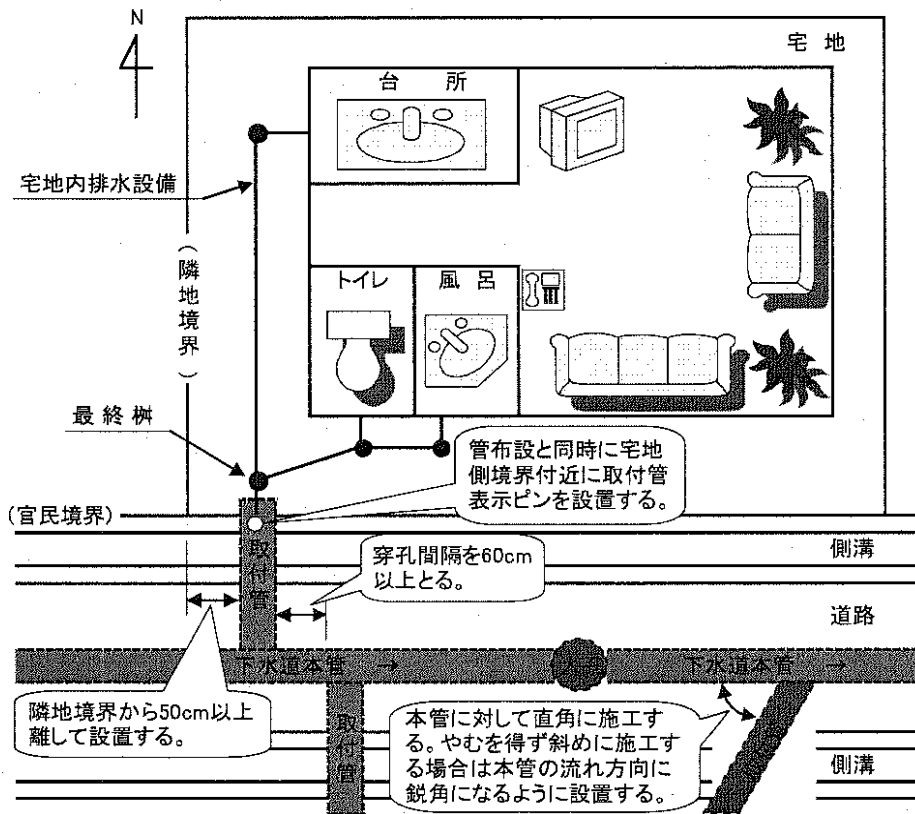


- ① 上下水道課, 請負業者で施工計画の総括打合せを行う。②へ
- ② 下水道施工区間で, 受益を受ける土地の筆界及び土地, 家屋の所有者等を調査する。現地調査, 既存資料, 法務局等により, 污水取付管対象家屋一覧表を作成する(様式2)。③へ
- ③ 施工路線に面している土地すべてについて, 污水取付管対象家屋記録簿を作成し, 番号順に記録を整理する(様式3)。④へ
- ④ 受益者に工事説明を行う。このとき, 受益者に取付管布設位置の決定を依頼するとともに, 受益者負担金, 下水道使用料, 宅内設備工事等について必ず説明する(地元説明マニュアル参照)。⑤, ⑥, ⑧へ
- ⑤ 今回工事以外の路線にも面している家屋で, 取付管布設位置を他路線から希望しているか, 既設路線で施工済の場合, 聞取り内容, 日時, 場所等を記録簿に記入し, 監督職員の印をもらう。
- ⑥ 取付管布設位置決定のため, 現地にて受益者本人に立会の依頼をする。⑦, ⑧へ
- ⑦ 現地にて位置決定及び, 立会写真撮影する。⑩へ
- ⑧ 受益者本人が取付管位置を自分で決められない場合(A)や, 遠隔地に住んでいる(B)等の場合は事由を聞取り, A. 委任状(様式4)を提出してもらい, 代理人の立会を求める。B. 電話等により受益者本人から布設位置を聞取り, 図面及び写真を作成して受益者本人に確認・押印してもらう。⑩へ
- ⑨ 受益者に監督職員及び 上下水道課職員 と再度説明し, 納得が得られない場合は拒否事由の聞取り内容, 日時, 場所等を記録簿に記入し, 監督職員の印をもらう。
- ⑩ 取付管の施工を行う(2. 取付管布設について, 3. 取付管布設時の注意事項参照)。⑪へ
- ⑪ 取付管位置決定の経緯等を記録し, 立会写真及び施工写真を整理する(4. 污水取付管対象家屋記録簿記載例参照)。写真撮影を拒否された場合は, 記録簿に拒否事由の聞取り内容, 日時, 場所等を記入し, 監督職員の印をもらう。

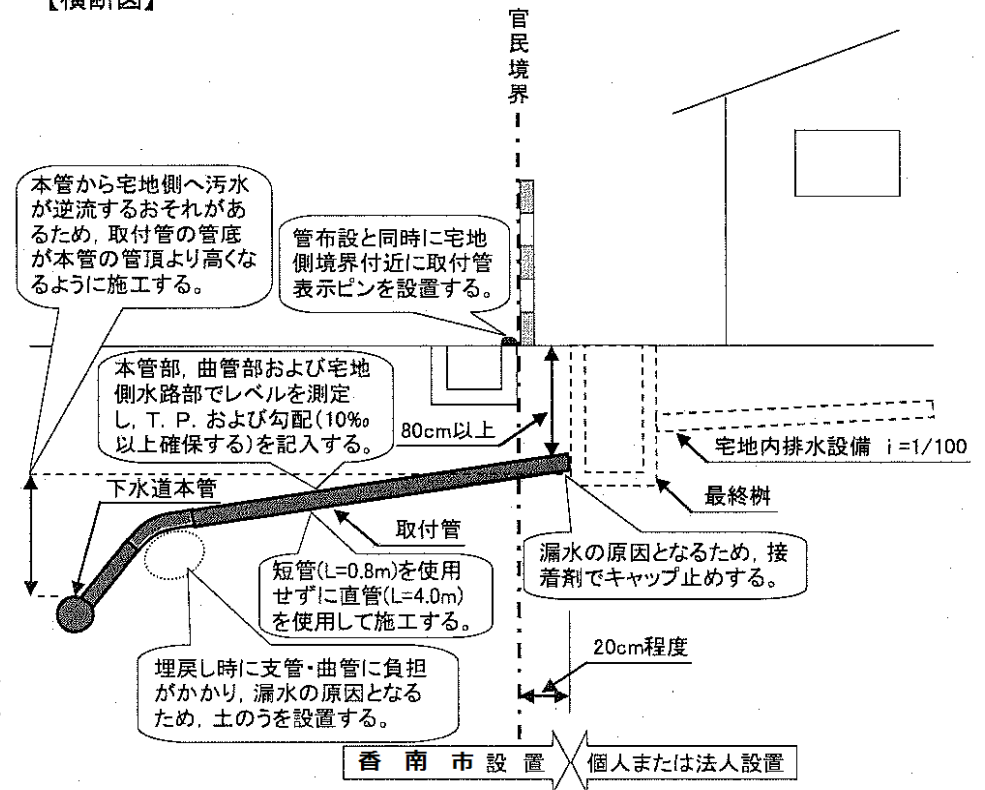
2. 取付管布設について

■ 取付管布設の概要を下图に示す。

【平面図】



【横断面図】



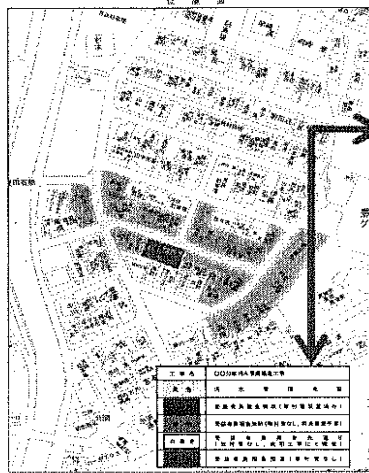
3. 取付管布設時の注意事項

1. 原則として、受益者と取付管位置を現地立会にて確認すること。受益者本人でない場合は本人との関係を記録簿に記入し、親族関係等でない場合は委任状(様式4)を提出してもらい、記録簿に添付する。また、遠隔地等により現地立会が困難な場合は、電話等で布設位置を聞き取り図面及び写真を作成して、受益者本人に確認・押印してもらい、記録簿に添付する。
2. 汚水取付管は、1建物または1宅地につき1箇所は無料。
3. 2箇所以上の設置を希望する場合は、2箇所目以降は個人負担となる。その場合、記録簿にその理由と有料・無料を明記する。有料分については、別紙(様式6)により寄附の申込を受け、工事完了後に受納書(様式7)を発行することとする。
4. 宅地側の排水設備はすべて、個人または法人が設置する。
5. 「受益者負担金」、「下水道使用料」、宅地内排水設備工事については地元説明マニュアルを参照し、受益者に必ず説明する。説明しきれない時は、監督職員または下水道保全課職員に連絡する。
6. 宅地内設備工事で隣地側に影響を及ぼす危険等があるため、取付管の位置は隣地境界より50cm以上離して設置する。
7. 本管に取付管の支管取付孔を近接して開ける場合は、穿孔間隔を60cm以上とる。
8. 取付管は宅地内(境界線から20cm程度)まで施工するよう配慮する。
9. 本管の管割や地下埋設物等によって立会位置と施工位置が概30cm以上異なる場合は所有者に再度了解を得て、その内容を記録簿に記入する。
10. キャップ位置での深さは概ね80cm以上(本管土被りは100cm以上を原則とする)とする。宅地側が一段高い、横断水路が深い等の理由で、深さが概ね150cmを超える場合は個人の宅地内設備工事費用に影響するため、監督職員と協議し、土地所有者および建物所有者の協力が得られれば宅地側を80cm程度まで立ち上げる。
11. 本管から宅地側へ汚水が逆流するおそれがあるため、取付管の管底が本管の管頂より高くなるように施工する。
12. 取付管の勾配は1/100以上確保する。布設時に本管部、曲管部および宅地側水路部でのレベルを測定し、T.P.および勾配を記録簿に記入する。
13. 宅地内排水の勾配は、1/100を原則としているため、敷地が広く布設延長が長くなると予想される場合は最終柵が深くなるので、受益者と協議し取付管の布設深さを決める。
14. 管継手部が垂れや逆勾配の原因となるため、出来るだけ短管(L=0.8m)を使用せず直管(L=4.0m)で施工する。
15. 取付管端部は漏水の原因となるため接着剤でキャップ止めする。
16. 取付管は本管に対して直角に施工する。地下埋設物等により斜めに施工する場合は、流入方向が本管の流れ方向に鋭角になるように設置し、記録簿にその理由を記入する。
17. 取付管布設時に布設位置真上の出来るだけ宅地側に表示ピン(青色)を正確に設置し、布設状況と表示ピンを写真に同時に写す。竣工図に記載してある寸法と現地の表示ピン位置は一致する。

4. 汚水取付管対象家屋記録簿の記載例

4.1 位置図

- 住宅地図等に施工箇所を黄色で着色し、凡例をつけて取付管対象家屋を色分けする。



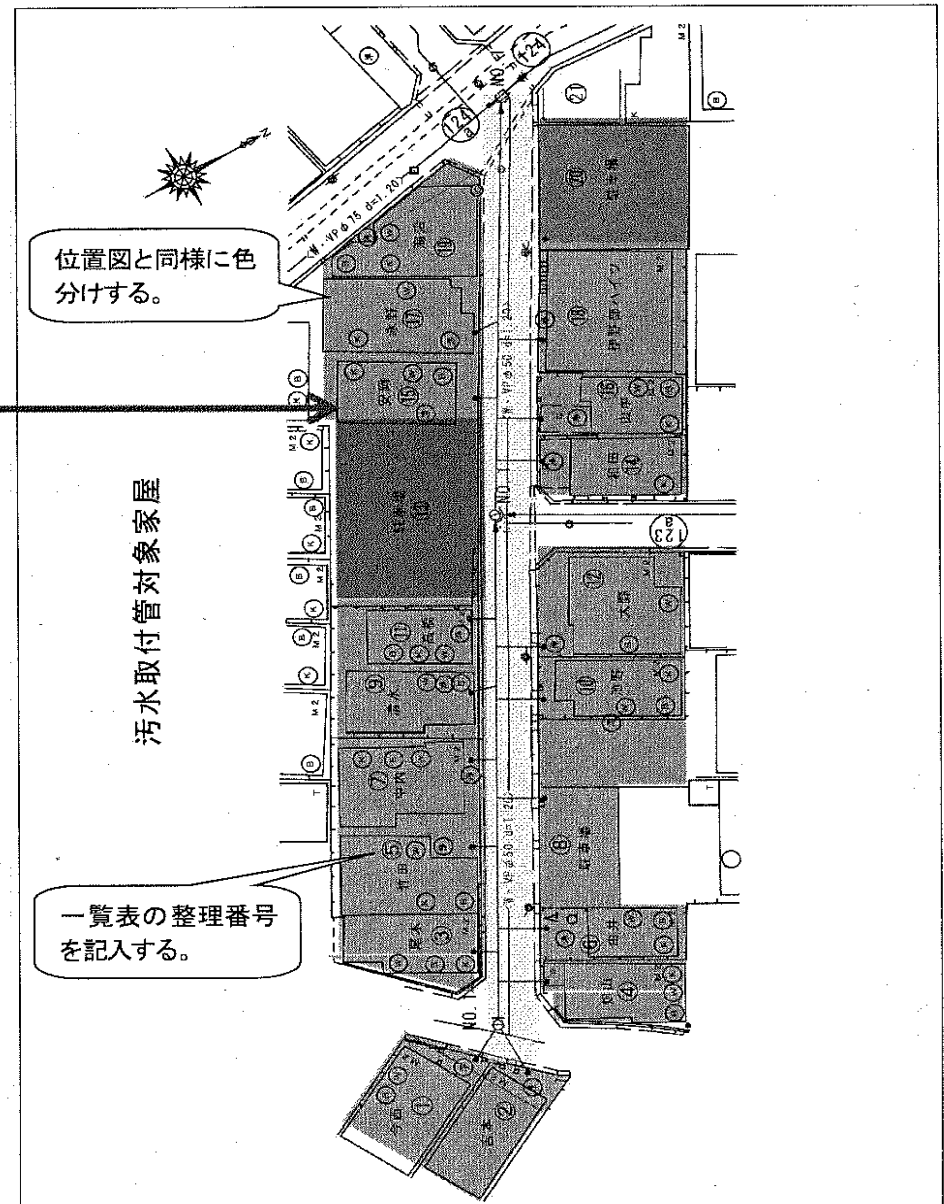
凡例

工事名	〇〇分区汚水管渠築造工事
黄色	汚水管渠布設
赤色	取付管設置対象家屋

※今回工事以外の路線にも面している家屋(角地等)で取付管布設位置を他路線から希望している場合や、既設路線で施工済の場合は、着色しないが記録簿を作成し聞き取り内容、日時等を記入する。

4.2 汚水取付管対象家屋見取図

- 位置図と同様に施工箇所を黄色で着色し、取付管対象家屋を凡例のとおり色分けした見取図を作成する。
- 工事施工路線に面したすべての土地について、汚水取付管対象家屋一覧表の整理番号を記入する。
- 番号順に汚水取付管対象家屋記録簿を整理する。
- 工事箇所が広範囲におよぶ場合は、見やすいよう適当に分割し作成する。



4.3 汚水取付管対象家屋一覧表

(記載例)

トイレの状況 → 合併浄化槽、単独浄化槽、汲取り など
 土地の状況 → 農地、駐車場、空地 など
 受益者負担金 → 受益者負担金納付(取付管なし)、受益者負担金拒否
 取付管の設置 → 別路線で設置済、次回工事路線で設置予定
 などを記入する。

様式2

汚水取付管対象家屋一覧表				P. 1
調査日	平成 ○年 ○月 ○日	調査員	現場代理人	欄○男
番号 1	所在地番	○○町△△△-××	備考	合併浄化槽
	住所	○○町△丁目×番地		
	名前	住		電話番号
土地の所有者	○○太郎	×	登記簿の土地所在地を記入する。住所と異なる場合があるので注意する。	
家屋の所有者	住所を記入する。	○		
借家人				
番号 2	所在地番	××町××	備考	
	住所	××町×丁目×番地		
	名前	住		電話番号
土地の所有者	○○○○	××町×丁目×番地		000-0000
家屋の所有者	"	"		"
借家人				
番号 3	所在地番	○○町○○番地	備考	汲取り
	住所	○○町○○番地		
	名前	住		電話番号
土地の所有者	××××	○○町○○番地		111-1111
家屋の所有者	"	○○町○○番地		"
借家人	△△△△	××町△△△番地		222-2222
番号 4	所在地番	△△○○番地	備考	駐車場
	住所	△△○○番地		
	名前	住		電話番号
土地の所有者	○×○×	△△○○番地		333-3333
家屋の所有者				
借家人				
番号	所在地番		備考	
	住所			
	名前	住		電話番号
土地の所有者				
家屋の所有者				
借家人				

■ 記載例を参考に施工路線に面している土地すべてについて、汚水取付管対象家屋一覧表を作成する。

■ 所在地番の欄には、登記簿の地番を記入する(住所と異なる場合があるので注意する)。

■ 備考欄にはトイレの状況や土地の状況、取付管の設置状況等を記入する。

4.4 汚水取付管対象家屋記録簿

■ 記載例を参考にして黒板を作成し、施工写真を撮影する。

■ 黒板には施工寸法と、使用材料を記入する。

黒板記載例

工事名	○○分区污水管渠築造工事(その○)
工種	汚水取付管工 ○○号線 (○○宅)

○○建設(株)

(記載例)

様式-3

汚水取付管対象家屋記録簿			
所在地番	○町●●番地	備考	浄化槽

日時	内容	記録者
平成○○年○月○日 PM○:○○	<p>■ 取付管と最終樹の位置決定について 【平面図】</p> <p>方位を記入する。 対象家屋毎に見出しをつけて整理する。</p> <p>受益者との立会日時を記入する。</p> <p>管布設と同時に宅地側境界付近に取付管表示ピンを設置する。</p> <p>家屋等は実際の形状に合った記載を行う。</p> <p>最終樹予定箇所</p> <p>マーキング(赤)【立会時】 表示ピン(青)【布設時】</p> <p>2.00m (写1) (2.05) (写2)</p> <p>隣地境界から50cm以上離して設置する。</p> <p>・中△○○ 氏の妻 ○子 氏と立会のうえ、上記箇所に決定しマーキングした。</p> <p>■ 取付管の布設状況 【横断面図】</p> <p>竣工図の寸法に一致する。 例 $\frac{2.12}{23.33}$ $h=0.90$</p> <p>マンホール蓋中心線</p> <p>SS 2.12m 2.23m (写3)</p> <p>1.53m 0.70m</p> <p>SS 1.42m 0.50m 0.20m</p> <p>管布設と同時に宅地側境界付近に取付管表示ピンを設置する。</p> <p>宅地</p> <p>0.80m以上 工地上で施工する。</p> <p>写4</p> <p>写5</p> <p>漏水の原因となるため、接着剤でキャップ止める。</p> <p>本管から宅地側へ汚水が逆流するおそれがあるため、取付管の管底が本管の管頂より高くなるように施工する。</p> <p>埋戻し時に支管・曲管に負担がかかり、漏水の原因となるため、土のうを設置する。</p> <p>短管(L=0.8m)を使用せずに直管(L=4.0m)を使用して施工する。</p> <p>現場代理人 ○○○○</p> <p>記録者の隣・氏名を記入する。</p>	⑦

- 記載例を参考に、工事施工路線の面したすべての土地について、土地の所有者、家屋の所有者、借家人の名前・住所・電話番号を調査し、記録簿を作成する。
- 立会日時・場所・内容(特に所有者の意向)・相手方の名前等を記録する。
- 立会者が土地所有者と異なる場合には、その間柄及び経緯を記入し、必要な場合には委任状(様式4)をもらい添付する。

- 今回工事以外の路線にも面している家屋で、取付管布設位置を他路線から希望しているか、既設路線で施工済の場合、聞き取り内容、日時、場所等を記録簿に記入し、監督職員の印をもらう。
- 取付管が複数箇所あがっている場合にはその理由を記入し、有料(個人負担)か無料(市負担)かを明記する。有料分については、別紙(様式6)により寄附の申込を受け、工事完了後に受納書(様式7)を発行することとする。
- 取付管は本管に直角に施工する。地下埋設物等により斜めに施工する場合は、流入方向が本管の流れ方向に鋭角になるように設置し記録簿にその理由を記入する。

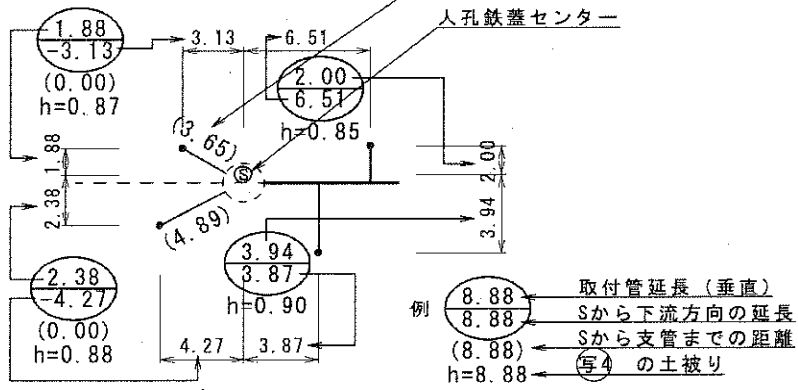
【写真撮影の注意事項】(別紙写真撮影の注意事項参照)

- 汚水取付管対象家屋記録簿の次のページに、取付管の布設状況写真を、各戸毎に整理し添付する。

- 写1 ⇒ 所有者と事前に立会を行い、位置を決定する。そのとき所有者に黒板またはボール等を持ってもらい、取付管の位置が写るように注意する。
- 写2 ⇒ 本管の管割や地下埋設物等によって立会位置と施工位置が異なった場合は施工した寸法を()書きし、その寸法が分かるように撮影する。なお、立会時の寸法と概ね 30cm 以上異なる場合は所有者に再度了解を得て、その内容を記録する。
- 写3 ⇒ 側溝などの下を掘ったあと、キャップ止めからリボンテープ等をあて図のように寸法を撮影する。撮りにくい場合があるので接写やフラッシュ、数枚に分けるなどにより鮮明に写す。
- 写4 ⇒ キャップ位置での深さを 80cm 以上に布設する。この位置では撮影できないため、側溝等できるだけ近い位置で撮影する。また、深さが概ね 150cm を超える場合は監督員と協議する。
- 写5 ⇒ 布設位置に表示ピンを打っていることの確認のため、布設状況と表示ピンを同時に撮影する。

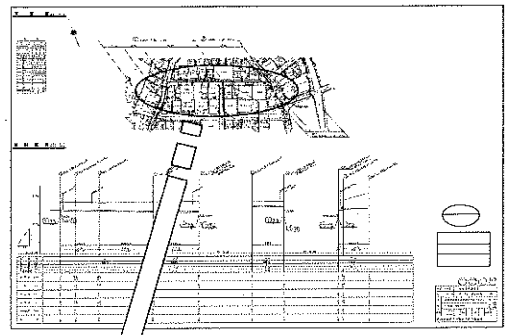
5. 竣工図の記載例

取付管を斜めに施工した場合は斜距を記入し、記録簿に理由を記入する

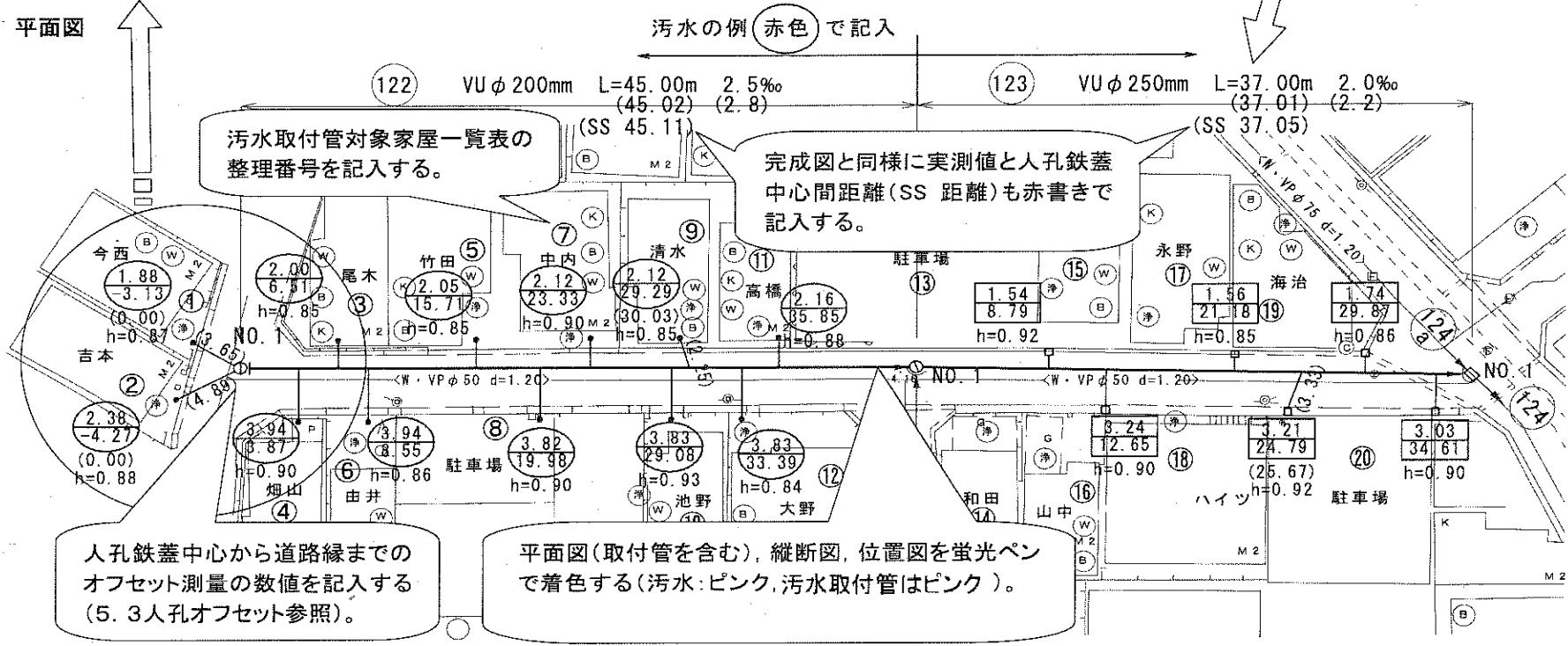


■ 竣工図は、本管・取付管及び人孔等、下水道に関する諸施設の保全、維持管理に重要な資料であるため、記載例を参考にして完成図と同様に実測値を赤書きで記入した平面・縦断面図を2部提出する。

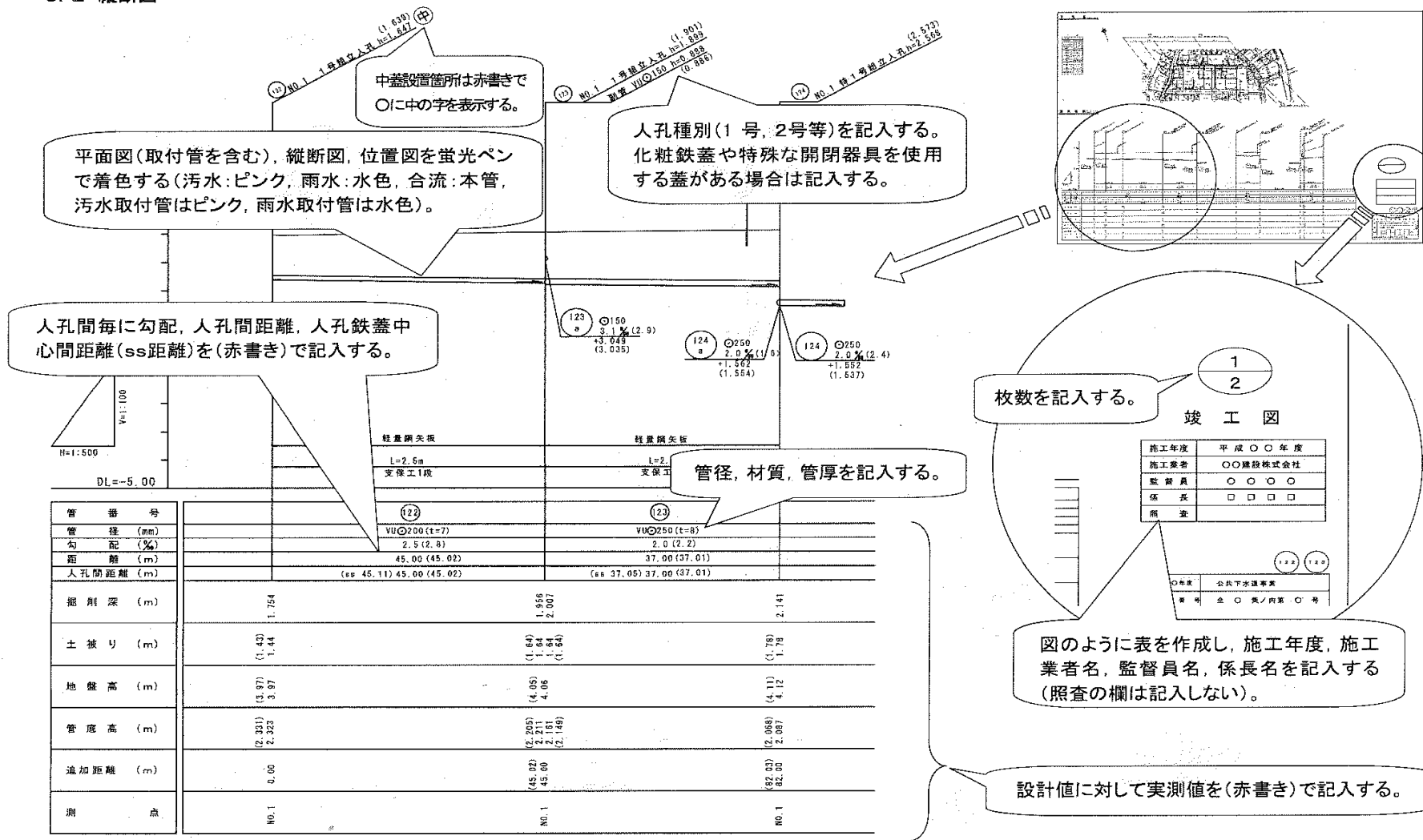
※注意事項
人孔斜壁の向きあるいは特殊人孔等により、竣工図の距離は区間距離と異なる値となる。



5.1 平面図



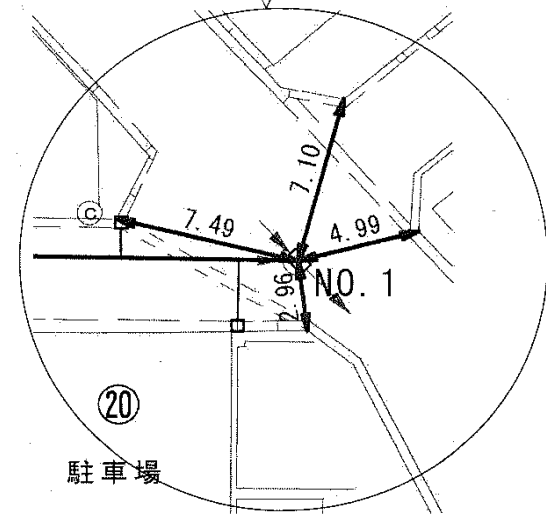
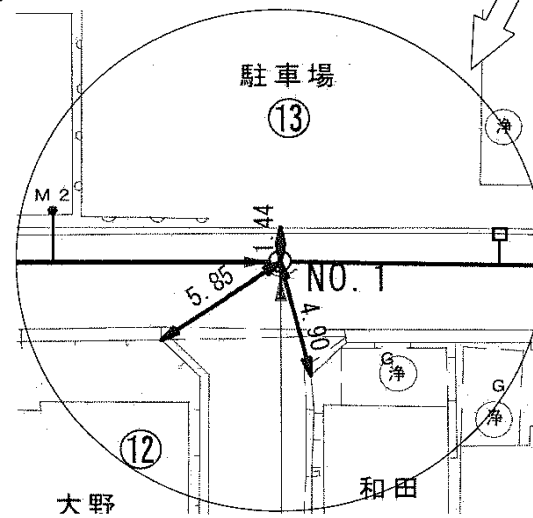
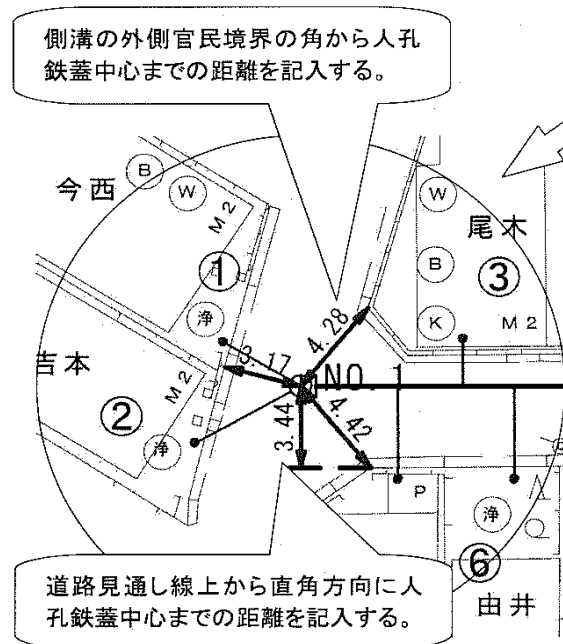
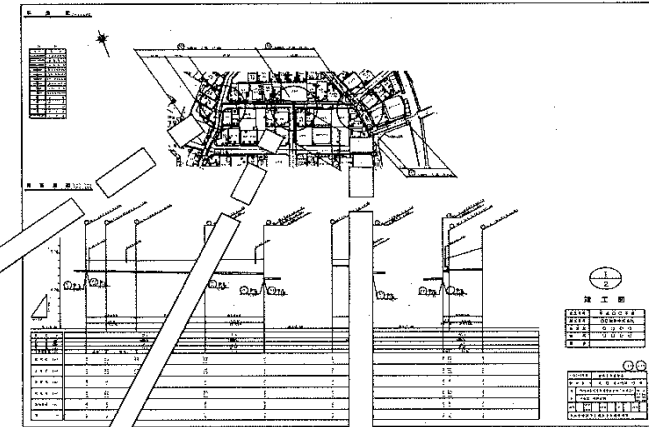
5.2 縦断面図



管番号				
管径(mm)				
勾配(%)				
距離(m)				
人孔間距離(m)	(ss 45.11) 45.00 (45.02)		(ss 37.05) 37.00 (37.01)	
掘削深(m)	1.754	1.956	2.007	2.141
土被り(m)	(1.42) 1.44	(1.64) 1.64	(1.84) 1.84	(1.78) 1.78
地盤高(m)	(3.97) 3.97	(4.05) 4.05	(4.06) 4.06	(4.11) 4.12
管底高(m)	(2.331) 2.323	(2.205) 2.211	(2.181) 2.181	(2.088) 2.087
追加距離(m)	0.00	(45.02) 45.00		(37.02) 37.00
測点	NO.1	NO.1		NO.1

5.3 人孔オフセット

- 図のように人孔鉄蓋中心から道路縁までのオフセット測定の数値を竣工図に記入する。
- 道路隅切り部の角以外からの測定は、道路に対して直角方向に人孔鉄蓋中心まで測定する。
- 距離の測定は斜距離とし、mmを四捨五入してcm単位とする。
- 見難くなる場合は、図面の空いている部分に人孔付近を拡大して記入する。

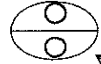


6. 上下水道課取付管提出書類の作成

■ 香南市上下水道課への提出書類

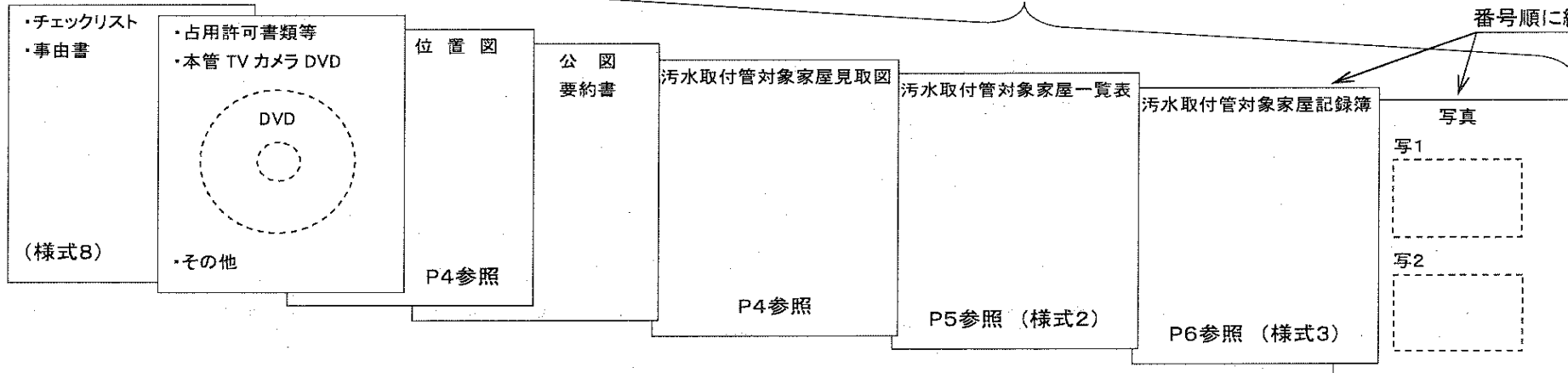
1. 竣工図 2部
A-1サイズの竣工図をA-4サイズに折り、図面袋(布製)に入れる。
2. 汚水取付管対象家屋記録簿 1部
A-4サイズのファイルに製本する。
3. 公図及び要約書 (必要に応じて)
原本のコピー1部。受益地と施工箇所を位置図と同様に着色し、一覧表の整理番号と施工箇所に面した土地および隣接する土地の所有者名を記入したものを1部及び要約書1部をそれぞれ記録簿ファイルに綴じる。
4. 本管 TVカメラ調査 DVD 1部
記録簿ファイルに付ける。(TVカメラ調査を実施した場合のみ)
5. その他(河川占用許可書, 国県道占用許可書, 同意書等)
原本を記録簿ファイルに綴じる。(必要に応じて)

【記録簿ファイルのタイトル記載例】

工期 平成〇年〇月〇日～平成〇年〇月〇日 汚水取付管対象家屋記録簿 〇〇建設株式会社	平成〇年度 汚水管渠築造工事(その〇) 〇〇町	平成〇年度 汚水管渠築造工事(その〇) 〇〇町 汚水取付管対象家屋記録簿 
	〇〇町 汚水管渠築造工事(その〇) 〇〇建設株式会社	工期 平成〇年〇月〇日～平成〇年〇月〇日 〇〇建設株式会社

冊数を表示する。

一覧表に対応して、番号順に綴じる。

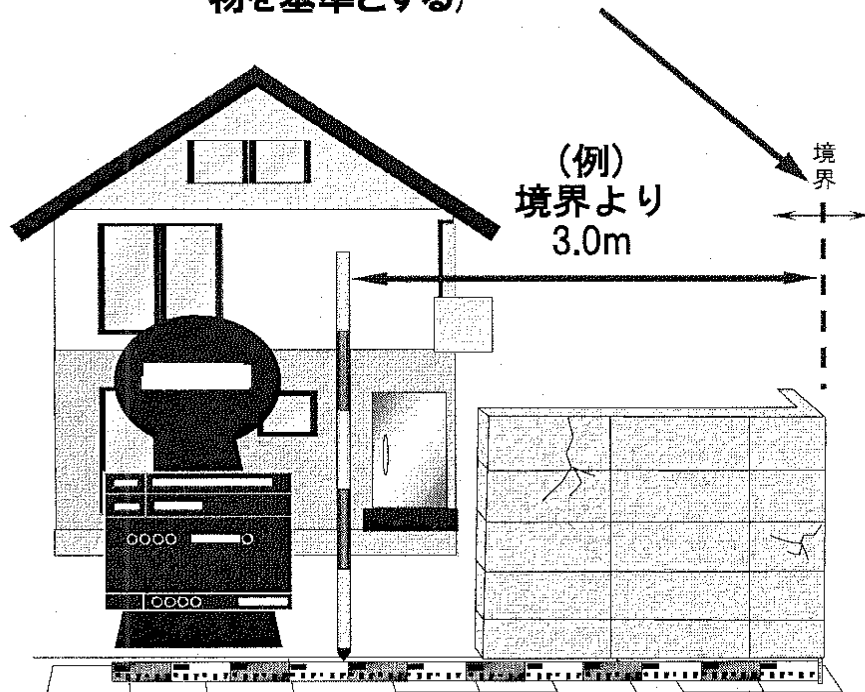


写真撮影の注意事項（写①）

(注意事項1/2)

< 良い例 >

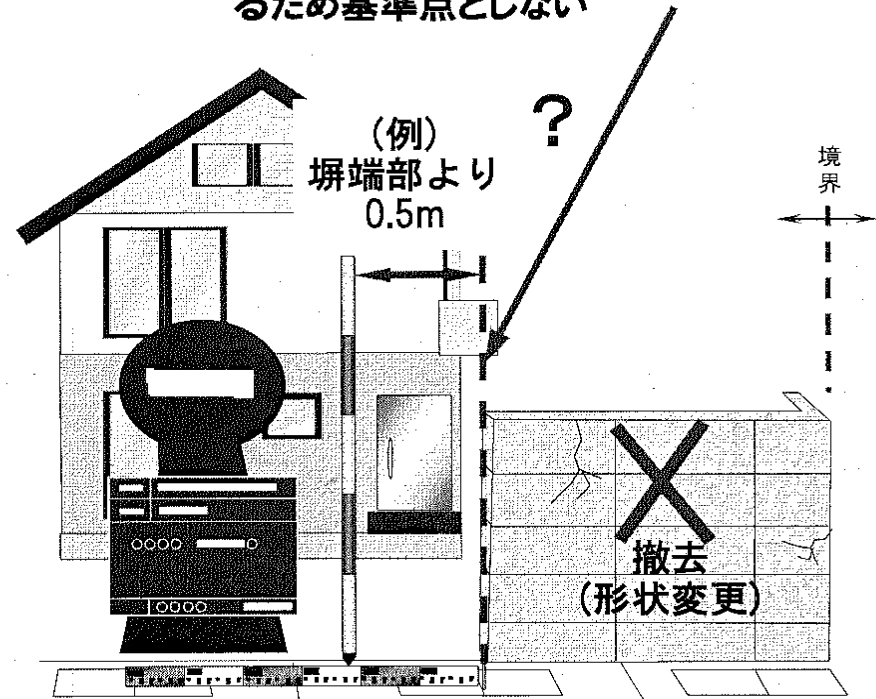
必ず、境界壁や道路隅切部等（半永久的な不動点）を基準に距離を明示する
（将来的な形状変更が考えられない構造物を基準とする）



(取付管位置については、隣地境界から50センチ以上離すこと)

< 悪い例 >

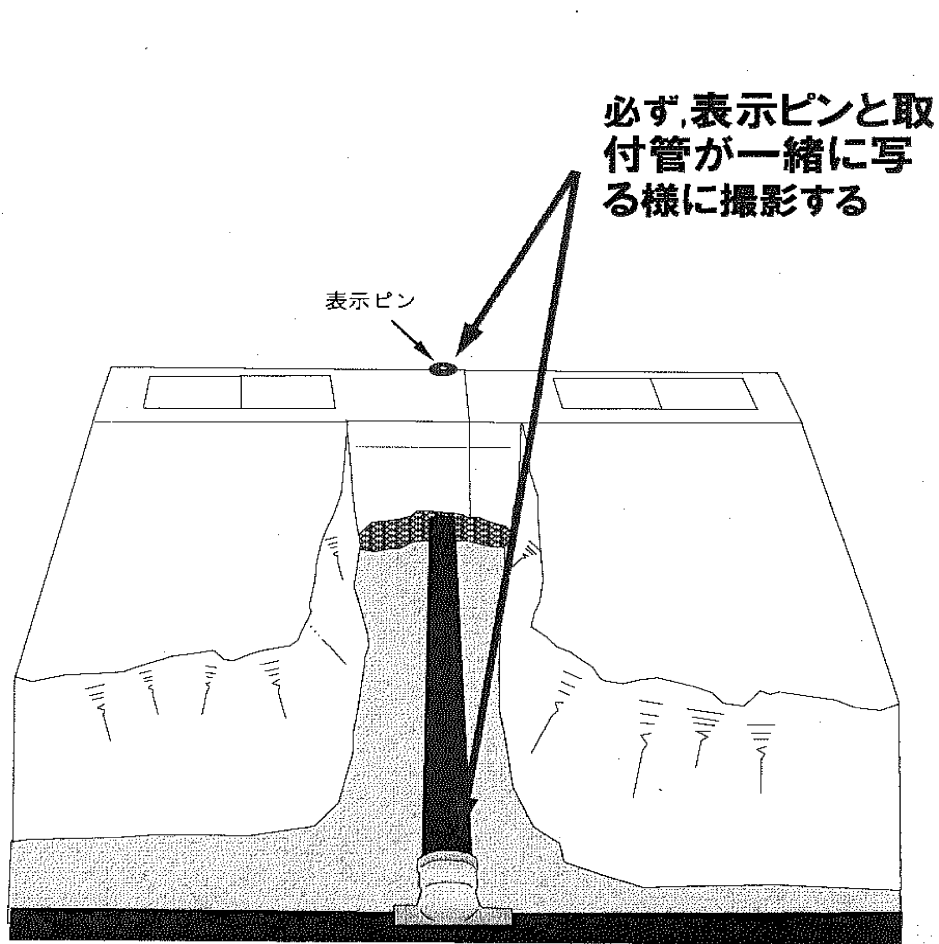
門、柵、塀等の簡易構造物や劣化している構造物を基準とすると撤去時（形状変更時）に位置関係が不明となるため基準点としない



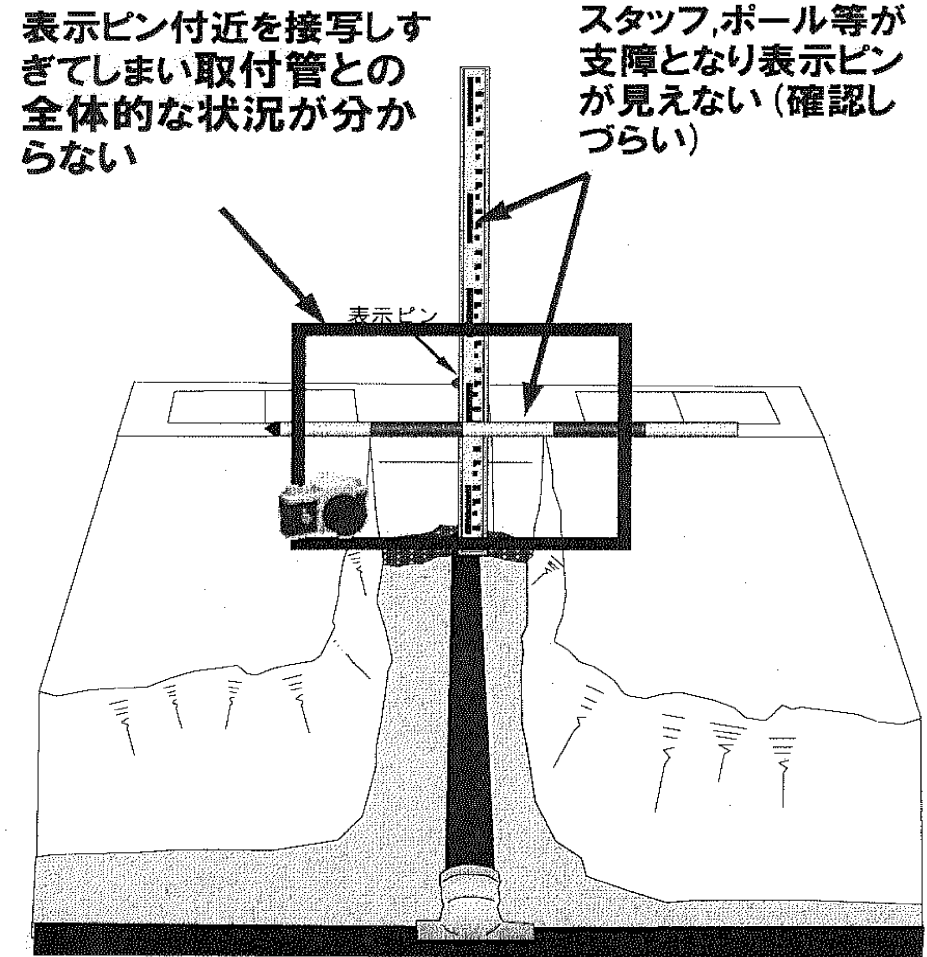
写真撮影の注意事項（写⑤）

（注意事項2/2）

< 良い例 >



< 悪い例 >



汚水取付管対象家屋一覧表					P.
調査日		平成 年 月 日		調査員	
番号		所在地番			備考
		住 所			
		名 前	住 所		電話番号
土地の所有者					
家屋の所有者					
借 家 人					
番号		所在地番			備考
		住 所			
		名 前	住 所		電話番号
土地の所有者					
家屋の所有者					
借 家 人					
番号		所在地番			備考
		住 所			
		名 前	住 所		電話番号
土地の所有者					
家屋の所有者					
借 家 人					
番号		所在地番			備考
		住 所			
		名 前	住 所		電話番号
土地の所有者					
家屋の所有者					
借 家 人					

汚水取付管対象家屋記録簿				
番号		所在地番		備考
		住所		
		名前	住所	電話番号
土地の所有者				
家屋の所有者				
借家人				
日時	内 容			記録者
	取付管と最終ますの位置決定について [平面図]			
	取付管の布設状況 [横断図]			

委任状

平成 年 月 日

香南市長 様

委任者 住 所
氏 名 印

今般、都合により、(住所)

(氏名) を代理人と定め、香南市 番地

の土地における汚水取付管位置決定に関する一切の権限を委任します。

記

工事名

代理人連絡先

平成 年 月 日

香南市長 様

申請人 住 所
氏 名 印

寄 付 申 込 書

下記のとおり寄付したいので申し出ます。

記

寄付物件 汚水取付管 N= 箇所 L= m

場 所 香南市 番地先 (別紙位置図のとおり)

様

香南市長

受 納 書

平成 年 月 日付けで寄付の申出のありました下記の物件については、
平成 年 月 日をもって受納します。

記

寄付物件 汚水取付管 N= 箇所 L= m

場 所 香南市 番地先（別紙位置図のとおり）